

未来を拓く

# 居場所ハウス

いばし  
ハウス

第1回

2013年6月13日、岩手県大船渡市末崎町(まっさきぢょう)に東日本大震災からの復興の拠点として「ハネウェル居場所ハウス」(以下、居場所ハウス)がオープンした。

「居場所ハウス」のアイデアは、米国ワシントンDCの非営利組織「Ibasha」が提唱する8つの理念がもとになっている。その理念の1つとして「地域の人たちがオーナーになること」が挙げられている。「居場所ハウス」は、有限会社伊東組、北海道大

高齢者を中心とする地域の人が、お客さんではなく、良いことも悪いことも引き受けながら場所を作りあげ、それを通じて地域をより良くしていく当事者になるために開かれた場所である。

「居場所ハウス」の建物には、米国ハネウェル社の社会貢献活動部門「ハネウェル・ホームタウン・ソリューションズ」の基金からの寄付を受け、陸前高田市気仙町の古民家を移築・再生したものである。オープンまでに米国の「Ibasha」、オペレーションUSAと、社会福祉法人典人会、有有限会社伊東組、北海道大



カフェ的なスペースでは訪れた人々が思い思いに過ごす(上)。毎月欠かさず開催されている運営のための定例会

## 「お客さん」としての参加を越えて 試行錯誤も許容し合う

「居場所ハウス」は10時から16時までのカフェ的なスペースの運営を基本としており、昨年のオープンから1年間に約5500人が訪れた。「居場所ハウス」が踊り教室、生花教室などを主催したり、地域の人々が会議や同級会を開いたり、近くにある末崎地区サポーターセンターが健康クラブを行ったりすることもあ

る。ただし、地域の人々は教室やイベントに参加するだけでなく、様々なかたちで運営にかかわっている。

「居場所ハウス」の活動にも多くの高齢者が参加している。ただし、それは、既存の活動にお客さんとして参加するというものではない。 「居場所ハウス」の建物には、米国ハネウェル社の社会貢献活動部門「ハネウェル・ホームタウン・ソリューションズ」の基金からの寄付を受け、陸前高田市気仙町の古民家を移築・再生したものである。オープンまでに米国の「Ibasha」、オペレーションUSAと、社会福祉法人典人会、有有限会社伊東組、北海道大

その1つが運営のための定例会である。オープン直後の2013年6月29日から毎月1回、欠かさずに開かれていた会議で、毎回10名ほどが参加している。定例会では運営で生じた課題や環境整備などについて情報共有、意見交換したり、これから実施するイベントに向けた打ち合わせなどを行っている。

もちろん、限られた人や専門家が運営するのには比べれば、スムーズな運営ではないのかもしれない。実際、様々な課題もあるし、時には意見が対立することもある。例えば、以前は毎日ボランティアスタッフが2人が交替して運営を担当していたが、うまくいかなかったこともあり現在はパートスタッフも加わって運営を担当している。このように、ポジティブな意味で、地域には「居場所ハウス」の運営において試行錯誤する自由が許容されていると言える。

「居場所ハウス」における、地域の人は何かしてもらうことを期待し、期待が満たされなければ苦情を言うだけのお客さんではない。得意なこと、好きなこと、できることを通して運営に協力したり、議論し合うことによって試行錯誤したりしながら、共に場所を作り上げ、さらには地域をより良いものに変えていける当事者なのである。

「お客さん」としての参加を越えて、試行錯誤も許容し合う。試行錯誤も許容し合う。試行錯誤も許容し合う。